

公益社団法人 上伊那教育会

平成30年度 第4回 総 会

◇日 時：2019年1月29日（金）

◇場 所：上伊那教育会館講堂

《 次 第 》

1 開 会

2 上伊那教育会の歌『仰望』

3 会長挨拶

4 報 告

- (1) 信濃教育会常任委員会報告 (飯澤 会長)
- (2) 上伊那教育会理事会報告 (飯澤 会長)
- (3) 信濃教育会臨時総会報告 (小澤 常任委員)
- (4) 県外教育関係機関研修報告座談会報告 (小澤 常任委員)
- (5) 第37次回日中友好長野県教育者訪中団 報告 (宮坂貴之 会員)

5 協 議

- (1) 「あり方委員会」答申について (原 常任委員)
- (2) 「未来継承委員会」答申について (藤澤義 常任委員)
- (3) 2019年度に向けた上伊那教育会諸事業の改善・充実に
関する意見要望等について (原 幹事長)

6 諸 連 絡

- (1) 「2019年度教科等教育研究会」の発足に向けて (小澤 常任委員)
- (2) 「研究紀要第40集」の配布について (加藤 常任委員)
- (3) 2019年度教育関係年間計画作成について (原 幹事長)
- (4) 総会代議員の旅費について (唐澤 事務局長)
- (5) 信濃教育会災害見舞金について (大槻 信濃教育会災害補償審議委員)

7 閉 会



飯澤 隆 会長挨拶

○ 3学期も1ヶ月を過ぎようとしています。「行く1月、逃げる2月、去る3月」と言われますように、あっという間に時間が過ぎ、平成30年度の授業日数も残り30数日となっています。そんな気ぜわしい中、代議員の皆さんには、本総会のご出席いただき感謝申し上げます。

○ 1月には上伊那教育会にとって、大きな行事が2つありました。

一つ目は1月12日に行われた授業研修会です。授業研修委員の先生方が、宮田小学校、本間大貴先生の学級の日々の記録や授業実践、ビデオ等をもとに、Aさんの育ちを見つめてきました。その成果を本間先生にまとめていただき、発表していただきました。その報告をもとに、参会者が分散会に分かれて語り合ったり、1年間指導していただいた北原和俊先生よりまとめのご指導をいただいたり、福井大学の松木健一先生より、本間学級の実践に関わる講演をいただいたりと、とても濃い内容の研修を行うことができました。子どもをしっかりと見つめ、そしてそれをもとに授業を行ったり、関わったりすることの大切さを痛感させられました。この6年間、本間先生をはじめ6人の若い先生に、この研修に関わっていただきました。いずれの先生も子どもの見方が深まり、学級が変容し、そして先生が大きく成長する姿を目の当たりにすることができました。本当にうれしく思いました。また、参加した先生方から、子どもをよく見るということは大事だという意見、そして、これからも子どもをよく見ていきたいという意見をたくさんいただきました。先生方とともに貴重な実践に触れ、一緒に学ばせていただくことができ、心から感謝申し上げます。

二つ目は、1月26日に行われた郷土研究部の発表会のことです。郷土研究部の専門委員の方が1年間かけて研究してきた成果を発表してくださいました。それぞれの先生方の専門性を生かした発表は、本当に興味深いもので、価値ある発表だと思いました。一年間かけて行ってきた研究のたまものであると思います。大きな刺激をいただきました。そして、共に学び、共に育つ、そんな1年間になっていたのではないかと思います。

上伊那は明治以来、研究をととても大事にしてきている地で、この2つの事業においても、根底にはそれが脈々と流れていることを感じました。

○ 上伊那教育会は、来年度、公益社団法人となって8年目を迎えます。いよいよ来年度は、教育会や社会の情勢等の実態に即し、さらに事業内容の変革に手を付けていく必要性を感じています。教育会事業も単なる踏襲から脱却し、今後の教育会を自分たちの手で創り上げる、そんな気概をもって、「会員の会員による会員のための教育会」を構築していくときであろうと思います。

○ 本日の協議では、代議員の皆様から教育会に寄せる願いや、改善の方向など、忌憚のないご意見をいただき、活発な協議をお願いしたいです。会員の皆様の声をしっかり受け止め、来年度の改革につなげていきたいと思ひます。

○ 本日の協議の後、2月8日の理事会を経て、次回3月1日の総会には、31年度の方針と事業計画案、予算案をお示しし、ご承認をいただく予定です。何とぞ活発なご意見を申し上げます。

* 最後に平成の次の年号は決まっていますが、平成31年度は使えなくなるので、今後2019年度ということをお願いいたします。

協 議 か ら

※下記は、一部抜粋です。詳しくお知りになりたい方は各校の代議員の先生が詳しい資料をお持ちですので、そちらをご覧ください。

『あり方委員会答申』 ※原常任委員より、以下のように答申が提案された。

- 1 5年目になった研修派遣事業「県外教育関係機関研修」について
全員で同じ研修場所へ行き、『上伊那教育』への執筆や報告座談会等と連動させた研修システムは、この5年で会員に定着してきており、参加者だけでなく多くの会員に好評である。実施時期や研修先を含めた方法等詳細については検討を加えつつ、継続していくことが望ましい。
- 2 「より多くの先生方が積極的・意欲的に参加参画できる体制の構築」と「三大研修を含む、会員の資質向上に向けた研修のあり方」について
研修参加者が気兼ねなく参加できるよう、留守中の授業の補充や校務について校内の体制を十分整え、職場全体として快く送り出せる雰囲気を作ることを大切にすることが望ましい。また、研修の意義や価値を職員に丁寧に伝え、参加意欲を高める努力を惜しまないようにすることが望ましい。
- 3 精選・見直しを行う必要のある教育会事業とその対策について（新たな事業の立ち上げも含めて）
精選を行う必要のある事業とその対応策については、今後3年間を目途に調査検討をしていくことが望ましい。



『公益法人未来継承委員会答申』 ※藤澤義常任委員より以下のように答申が提案された。

- 1 持続可能な郷土研究部専門委員の研究調査費について
(1) 「上伊那誌自然篇改訂増補版」の発行に伴い研究調査費が多額になっていたが、発刊を区切りとして、それ以前の額を参考に算定することが望ましい。
(2) 当面の間、年度ごとの専門委員の研究調査費の上限を定め、自然の部、人文の部の各班を単位として、それぞれの計画に基づいて支給することが望ましい。
- 2 講師、非常勤講師、再任用者（ハーフ）の会費について
(1) 講師は現行通り。非常勤講師・再任用（ハーフ）については、月額200円としたい。
- 3 各種委員会について
(1) 各種委員会の構成員数を平均2割程度削減することが望ましい。
(2) 各委員会の事業内容は、本来の目的に基づいて精査し活性化を図ることが望ましい。
(3) 委員の選出については、各校からの立候補と推薦、教科等教育研究会からの推薦を合わせ、人材を育てる観点で選任していくことが望ましい。
- 4 養護教諭、栄養教諭・栄養職員、事務職員、司書職員の皆さんが参加参画できる仕組み作りについて
(1) 各職の役員等との懇談を継続し、状況に応じて連携・参加参画のあり方を探っていきたい。



上伊那教育会諸事業の充実改善に関する意見・要望

会員の皆様からのご意見

職能研修事業の県外教育機関視察を継続してほしい。6月末に川崎小学校、川崎中学校視察に本校からも参加した。私自身も研修報告会に参加した。小中連携の在り方、学び合いの授業、人を大切にする「聞く」という姿勢、そこで成り立つ主体的対話的で深い学び、どのような子どもを育てたいか共通の認識、いくつかの言葉が胸に残った。日々の忙しさの中で3日間学校を空けることは簡単なことではないが多くの先生方が刺激を受け、それぞれの実践につながっていく姿に、私自身も刺激をいただいた。長野県、上伊那との違いも興味深いものだった。こういう視察を通して刺激をいただき、改めて上伊那のよさに気づかされたり、他県の良さを学んだりする機会をいただけることはありがたいことだと思う。そういう先生方を送り出せる学校体制ができるように応援していきたい。さらに雑誌「上伊那教育」にも、それぞれの先生方の思いが綴られ、まとめてくださった先生方にも感謝したい。今後も、こういうことを大切にしていきたい。(箕輪中 宮原俊一 会員)



平和教育研修事業について来年度も継続してほしい。少年の塔の整備作業ですが、代議員以外にも呼びかけ参加があり、飯澤先生のお話で多くの会員が理解を深めた。また、慰霊祭では一般地域にも呼びかけ、60名の参加があり、元上伊那教育会専任幹事の北原和夫先生の話をおききすることができた。たいへん感動した。

人権教育講演会において、松代大本営平和祈念館理事の飯島先生から、満蒙開拓を通して苦しい思いをしてきた方々の様子や、中国残留の子孫への差別の様子をお聞きし、戦争の悲惨さを別の角度から改めて学ばせていただいた。平和教育研修事業が充実していたと思う。(宮田中 保科 功 会員)

文学研修会に推進する立場で携わった。講師の先生をお招きして読み合わせを6回行った。読み応えのある作品を読み、先生方と学び合った。1つの作品を語りながら、自身の生活に重ね合わせてとらえたり、見方考え方を学んだりして、視点が広がった。文学講演会では、参加された方から講師の堀井先生のお人柄に触れて教師としても感性を高めてくれる有意義な時間だったとの感想が寄せられた。私自身も教師としての有り様について振り返る貴重な機会であった。日々の実践につながる研修だと思った。また、このような研修の機会をいただけたらと思う。



(伊那小 松井ちはる 会員)

夏休み体験スクールについて。専門性を生かした数多くの体験スクールを開催し、多くの児童、保護者が参加。地域の素材、講師に学び、専門的な知識、お人柄を存分に学べる有意義な機会になった。新聞紙とペットボトルを使った剣作り、読み聞かせをする体験スクールでしたが、募集定員いっぱいの参加者がおり大盛況だった。参加者も祖父と子、親子、兄弟と様々で、多くの会話や関わりがあり、楽しそうな姿が見られた。講師古谷先生もすべてのテーブルを回り、丁寧に教えてくださり積極的にかかわってくれた。参加者の感想も「またやってみたい」「参加して良かった」等、とても好評だった。運営の職員も充実していて良かったと語っている。体験スクールは、伊那市内の参加児童、保護者が多かったが、近年では辰野町から中川村まで、多くの子どもが参加していると聞いた。郡全域に広がっており、これこそ教育会の公益性のよい表れではないかと思う。委員の先生方にはご苦勞をおかけするが、良さを継続してほしい。(辰野東小学校 伊東 香絵 会員)



映画会鑑賞の継続について。毎年の多くの申し込みがあつて楽しみにしている家庭がとても多い。職員の負担を考えながら、また、上伊那の子どもたちのために、希望者全員が鑑賞できるように配慮しながら、継続をお願いしたい。(赤穂南小 唐木 弘志 会員)



【閉会の言葉】

林 武司 副会長



3学期がスタート。1年間のまとめ、次年度の方向を考える時期です。教育会も1年間の事業がほぼ終了し、各委員会まとめの時期となりました。本日の総会では本年度の反省を元に、来年度の課題と重点について協議していただきました。その中で代議員の皆様から、教育会に期待することや研修の場を大事に受け止めていきたい、という決意をお聞きすることができ、たいへん心強く思いました。こうした先生方の主体的な研修の姿勢こそが、上伊那教育会としての職能団体としての存在意義であります。脈々と伝えてきた不易なるものであると思います。

会員より寄せられた意見要望や本日の協議でいただいた貴重なご意見を大事にしながら、さらに事業の精選と内容の充実に向けて、見直すべきは見直し、互いの英知を出し合い進めていきたいと思えます。